

令和6年度 第1回 青梅市立学校給食センター運営審議会会議録

日 時

令和6年4月15日（月）午後1時30分から午後2時10分

会 場

市役所3階教育委員会会議室

出席者

（委員）

百合会長（議長）、鈴木委員、小熊委員、清水委員、片平委員、
田中（三）委員

（事務局）

橋本教育長、谷合学校教育部長、榎戸学校給食センター所長、
小山業務係長、久保栄養指導係長、須崎主査

欠席者 神尾委員、斉藤委員、田中（順）委員

開会（事務局）

本審議会の議事内容につきましては、議事の要旨を取りまとめ、教育委員会へ報告するとともに、教育委員会のホームページに掲載することを了承いただきました。

また、本日の運営審議会は、青梅市立学校給食センター条例施行規則第7条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を得たため、成立していることを報告しました。

続いて、委員および事務局職員を紹介しました。

1 教育長あいさつ（教育長）

皆様、こんにちは。

年度初めの大変お忙しい中、令和6年度第1回青梅市立学校給食センター運営審議会にお集まりいただきましてありがとうございます。

日頃から、委員の皆さんには、学校給食センターならびに学校給食につきまして、それぞれの立場から御協力をいただいておりますこととお礼申し上げます。

さて、本市の学校給食費についてでございますが、先の2月の市議会におきまして無償化を行うことを決定いたしました。

市長の公約でもありましたが、ここで東京都が二分の一を補助することが確約されたので、市におきましても踏み切ったところでございます。

東京都としては、国の方針が定まるまではその補助は続けていくと聞いておりますけれども、青梅市としては、子供たちのために二分の一をなんとかして捻出していきたいと思っております。

そのために、子ども応援基金を作りまして、給食費のみならず子供のため

にいろんなことに使っていこうということでございます。

無償化になりましても、これまでと同様、安心でおいしい給食の提供に努めてまいりたいと思います。

それから、新学校給食センターについてお話しさせていただきます。

当初は、令和8年度の2学期から、新学校給食センターでの給食を提供しようと考えていたところでございますが、建設事業者のいわゆる働き方改革で、週休2日制を導入するとのことでございまして、日曜日に加えて土曜日にも完全に工事は止まるということでございます。その分、工期を延ばさざるを得ない状況になってしまいました。

このため、約半年ほど延ばさせていただいて、令和9年度の新学期から、新学校給食センターで調理された給食をお届けしたいと考えているところでございます。

さて、この2年間、物価高騰が続きましたけども、その値上げ分につきましては、国からの交付金が出ておりましたことから、給食費については一切値上げをせずにやってまいりました。

令和6年度以降、国からの交付金は望めないということでございます。このままではその物価高騰分に対する食材等の確保が対応できないということとなります。

大変心苦しいことではございますけども、最低限の給食費を値上げせざるを得ない状況であります。

もちろん、無償化ですから各御家庭に御迷惑をかけることは一切ありませんが、先生方や給食を食べる職員について影響が出てまいりますので、御理解をいただきたいと思っております。

今日は、その給食費の値上げに関する諮問をお願いすることになってございます。

引き続き、学校給食センターの運営につきまして御教示、御協力を賜うことをお願い申し上げます、挨拶とさせていただきます。

どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

2 会長開会および開議宣言（会長）

皆様、こんにちは。

令和6年度第1回青梅市立学校給食センター運営審議会の開会にあたりまして、一言御挨拶申し上げます。

本日は、大変お忙しい中、御出席いただき誠にありがとうございます。

青梅市の学校給食につきましては、この4月から無償化を行い、子育て世代の負担軽減を図っていくことが決まったとのことで、これはとても良いことと思っております。

しかし、無償化になると、今度は市民の皆さんの税金で子供たちの成長を支えていくことになると思っておりますので、今までと変わらず子供たちにおいし

い給食をしっかりと提供していただきたいと思います。

そして、本審議会においても、できることがあれば協力していきたいと思っております。

また、新学校給食センターについては、稼働時期の延期について教育委員会でも報告がありました。

今の老朽化した藤橋調理場での調理が続きますが、学校給食センターの職員の皆様には、事故なく、子供たちが安心して給食が食べられるよう頑張っていたいただきたいと思います。

17日より、新1年生も給食が始まると聞いております。私は、青梅市の給食はとてもおいしいと思っておりますので、新1年生の児童の皆さんも楽しみにしていると思います。

この給食を食べ、元気に楽しく学校生活を送ってもらいたいと思っております。給食センターの皆さん、これからもどうぞよろしく願いいたします。

さて、本日の審議会は、諮問事項および協議事項、各1件が予定されています。学校給食費の改定について、事務局からの説明を受け、委員の皆様から御意見をいただく予定です。

活発な意見を交わし、有意義な会にしたいと思っておりますので、御協力のほどよろしくお願い申し上げます。

それでは、これより運営審議会を開会いたします。

【これより、百合議長により進行】

3 諮問事項

(1) 学校給食費の改定について（諮問）

教育長から青梅市立学校給食センター運営審議会に対し、学校給食費の改定について諮問しました。

（教育長）

青梅市立学校給食センター運営審議会、会長 百合陽子殿
学校給食費の改定について

青梅市立学校給食センター条例第3条の規定にもとづき、学校給食費の改定について 運営審議会の意見を求めるものでございます。

どうぞよろしく願い申し上げます。

（会長）

ただいま、教育長からいただきました諮問に対する協議は、次の協議事項の中で行いますので、御了承ください。

4 協議事項

(1) 学校給食費の改定について

青梅市教育委員会から諮問のあった学校給食費の改定について協議を行いました。

なお、この諮問については、本日の運営審議会において検討し、答申内容を決定することを了承を得ました。

事務局（業務係長）より、諮問理由および改定の概要を説明しました。別紙1のとおり。

なお、本日協議いただき、給食費を改定することとなった際は、令和6年8月1日から、改定後の金額を適用する予定である旨説明しました。

事務局からの説明後、以下のとおり質疑、意見交換が行われました。

委員 物価が下がった場合は、給食費を下げるということか。

事務局 現在、補助金でいただいている状態でも、材料を工夫しながらやっている部分がございます。多少下がったようでしたら、その材料を元の状態に戻したいと思います。

ただし、大幅に下がるようなことがあれば、改定について考えたいと思っております。

委員 今回上げるというのは、それを含みに入れているってことでよいか。また下げるかもしれないということか。

事務局 大幅に下がれば少し考えなければいけないと思っております。

委員 この給食費の値上げは、児童、生徒の他に、給食を食べている先生、事務の方や給食センターの方も含まれるということによいか。

事務局 おっしゃるとおりでございます。給食費としては、先生方や私ども給食センターの調理員や職員などが食べている分も同じ金額で支払いをしております。

委員 先生方も同じように上がるということだが、この上がる分は、これはわからないと思うんですけど、どの程度影響するものか。

また、無償化はいつからなのか。

事務局 実際に保護者の方への影響というのは特にありません。

無償化はこの4月からとなります。

委員 実際に各家庭では、この分は払ってなくて、青梅市がもつ分がこのぐらい増えますよということか。

事務局 そのとおりです。あと、先ほど御説明申し上げたとおり、東京都が補助事業を始めることとなっておりますので、その上がった分の半分は東京都にもっていただく予定です。

委員 1食あたりの単価で比較すると、この値段ということだが、全体としての給食の提供数は今後どうなっていくのか。

児童、生徒が減ってくる中で、給食提供数としてこの1食あたりを算出した基準年がいつなのか、今後の見込みはどうか、その辺を考えなくてよいのか。トータルの費用ということでどうなのか。

事務局 御指摘のとおり、子どもの数は減っていますので、全体としては減っていくと捉えております。

年間の喫食基準回数は、小、中学校それぞれで、180回、185回と決まっておりますので、食材料費の総額については、人数が減りますので、トータルとしては、下がっていくと考えております。

委員 値上げ幅を12パーセント、10パーセントで説明があったが、今の様子を見てると物価がもっと上がりそうな気がする。昨年度ベースの金額に10パーセント、12パーセントの上乗せで、今後対応できるのか。

事務局 確かに御心配いただいているところではございますが、今後物価上昇が続いた場合、まず献立の工夫や食材購入に当たっての契約の見直しなど給食センターの方でできる努力を行っていきたいと思います。

今回、この改定を認めていただき、給食費を上げたとしてもなお物価上昇が続く、内部の努力では現在の質や量を維持できないような状況が見込まれましたら、教育委員会、市長部局に御相談申し上げまして、場合によってはさらなる改定も視野に入れなければいけないと考えております。

委員 内部努力といっても、味噌汁とご飯と唐揚げだけじゃちょっとどうか。

事務局 御指摘のとおりでありますので、質や量というところでは、現在提供している状況をできるだけ、維持していきたくて考えております。その中で、どうにもできなくなった時には、しかるべきところに、御相談させていただきたいと考えております。

まずは、内部努力で、この改定をお認めいただけましたら、その中で、努力していきたくて考えております。

委員 昨今の国際情勢、社会情勢を鑑みたときに、値上げするのが前提だと思う。今回の子どもまんなか基金に支えられて、実質保護者の負担がなくなったことを鑑みれば値上げは妥当である。

保護者の負担があるならば、値上げをすれば10パーセントぐらいかなという考えに立つが、実質教職員であるので、やはりこの物価指数をしっかりと上乗せした形でやっていかなければ、これまで相当努力していただいた上で維持しているけれども、今後維持できないというふうに拝察する。この12パーセントの値上げを支持いたします。

事務局 ありがとうございます。御指摘のとおり、学校の先生方には負担が増えてしまうということで、こちらでも当然認識しております。

その中で、先々のことは確かに見えない部分もありますので、根拠なく上振れをさらに増やすことができない中では、実際10パーセント少しを上乗せさせていただき、あとは交付金などを使ってやりくりして提供を続けていきたくて考えております。

先生方の負担もできるだけ掛けないよう、まずは給食センターで努力していきたいと考えております。

御心配いただきましてありがとうございます。

教育長 御意見いただきましてありがとうございます。基本的に御心配いただいているということで、大変ありがたく思っております。

無償化だから保護者の皆さんには一切負担は関係ないんですが、より物価が上がってしまった場合には青梅市が頑張って払いますよということですが、その原資はやはり市税などで、ポートレースからのお金も少しは使えるとは思いますが、結局市民の皆さんへ何らかの御負担をいただくことになりかねないということでございます。

1度上げると、じゃあ来年また上げるなんてことは現実的には考えられないと思いますので、慎重な御議論をいただきたいと思っております。

委員の皆様に、一つお尋ねしておきたいのが、小学校の先生方は高学年の金額で徴収させていただいており、中学校の先生は中学生の金額でいただいているということです。

12パーセントを想定した場合、小学校高学年の金額は500円上がることとなります。ところが、中学校については650円、中学校の先生の方が150円大きく上がってしまうということです。

このあたりについて、皆さん何か御意見があればお伺いしたいと思います。

委員 小学校と中学校では、先生に出される量とかは違うのか。

事務局 小学校の方が若干少なくなっております。

委員 小学校の先生は、中学校の先生より少ない給食を食べているってことになるんですね。

事務局 そのとおりです。

委員 先生方は（相当の量を）食べているのではないか。

事務局 基本的には大きな鍋で運んで行きますから、多い少ないはあると思いますが、例えばパンですと、グラム差になりますが、小学校は小学校高学年用のパンを届けておりますので、そういったところは明らかに違います。

小学校、中学校で比べることもないと思いますが、基本的には、そういった個別のところもあるので、お金としては小学校の高学年ということで徴収させていただいております。

委員 そういうことであれば、小学校の先生と中学校の先生に差があっても、妥当であると思うがどうか。

委員 元々単価を見た時に300円なんですよね。これで高いと言われてもどうか。それが12パーセントになっても340円。これで満

足いただける食事って他にないと思うがどうか。

夏休みや春休みでは、外食を頼みますけども、一食頼めば安くても500円は掛かる訳で、それから見たらもう全然この値段は非常に良心的でありがたい。

委員 僕の育った時代の給食ってめちゃくちゃひどかった。だから、給食っていうとすごく恨みつらみがある。脱脂粉乳から始まって、パンもひどかった。そもそも子どもたちがどうやって美味しく食べてもらえるかという観点が0（ゼロ）だった。そのうえ絶対に食べなきゃいけないし、どんなにまずくても残すと大変なことで、放課後まで残って食べさせる。とにかく料理も全く美味しいという意識は全くなかった。

だから、量よりやっぱり質だろうと思う。僕の子供に聞いてみると、とにかく美味しいと言っている。「なんとか風」とかで、昔ではあり得ないような、レストランの食事じゃないのみたいに思った。

他の自治体でもそうかもしれないが、食事の量より質が保てるのかどうか、要するに美味しいかどうかだと思う。みんな残さず食べてもらえるような、そういう質をキープしてもらおう、その方が大事だと思う。

値段もそうだけど、とにかく質を落とさないでほしいと思う。

委員 私も学校訪問の時に学校給食をいただきますが、本当に美味しいと思う。この金額で食べさせていただき、本当に子供たちは幸せだなと思ってる。

質は保っていただいて、そのうえで金額は12パーセントでやっていただけたらと思う。

事務局 事務局としては、先ほど説明申し上げたとおり、先生方の負担を考慮して、上げ幅を考えましたが、この辺りについては委員の皆様方の御意見を頂戴できればと思います。

特に事務局としての考えは現時点ではございません。よろしくお願いたします。

【質疑、意見を終結、採決を行った。】

議長 皆様、よろしいでしょうか。御意見、御質疑ありがとうございました。

では、お尋ねします。挙手をお願いします。

では、10パーセントの改定を賛成と思われる方は手を挙げてください。

(なし)

では、12パーセントの改定でいかがでしょうか。

委員全員 挙手

議長 はい、ありがとうございました。

ただいまの質疑、意見等を踏まえまして、採決のとおり、令和6年8月1日以降の学校給食費については、12パーセントの改定として答申いたしたいと思います。

よろしいでしょうか。

委員全員 異議なし

議長 それでは、そのように進めてまいります。

また、私からも、今後も国や都からの支援策があれば積極的に活用していただきたいのと、栄養バランスや質を保った安全、安心な給食の提供に努めていただきたいとの意見いたします。

なお、教育委員会への答申書の作成につきましては、私に御一任いただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

委員全員 異議なし

議長 では、4月17日に開催予定の教育委員会に答申いたしますので御承知おきください。

以上をもちまして、日程4の協議事項は終了といたします。

5 その他

事務局 特になし

委員 話題になっている紅麴について、青梅市の給食では、関連した食品の使用はどうだったか。

事務局 問題が出た後に、すぐに納入業者に確認しておりまして、特にそのようなものは使用していないということで確認は取ってございます。

6 会長閉会および閉議宣言（会長）

以上で、本日の議事日程は全て終了いたしました。

これをもちまして、令和6年度第1回青梅市立学校給食センター運営審議会を終了いたします。

本日は、大変お疲れ様でした。ありがとうございました。

7 閉会